



[illegible]

ように帳簿材料を前もつて置くという関係のものでございませう。又備費  
 支出はございせん以上歳出の合計が千七百六十圓千八百圓と成つてしまつて四百  
 五十六圓千五百圓をとりまして翌年度繰越額が千四百九十四圓千七百九十九  
 圓に繰越したわけがございませう。決算中で繰出し金が多走廻りゆせぬかつたとい  
 う美につちかしては甚だ残念でございませう。以上が上場会計の内容でござ  
 いましてよくよく御検討の上決定の必要を御願ひ申し上げまして説明を  
 終りますのでいたゞたいと申します。

一、議長(副議長)

続いた調査委員の報告を願います。

一、二十三番(山坪茂)

議長

一、議長（高橋千春）

二十三番

二十三番 次一

登壇

大々早收入役からと協賛別会計決算のついで詳細の説明ありおし大通り有  
 七日午前九時より本決算のついで恒例の審議のついでおし大結果決算の誠心良好

下りしを事と認めし。以上と高橋決算の報告にかゝる。又、  
 一議長高橋千春。こゝより理事者の説明並に監査委員の報告に対し、質疑を  
 行い事。

一十八番大野村長

一議長(有橋千春)  
十八番

二十八番大野村大  
スズリイウ説明の事や、玄界方の見込外藤いかにあつたところの事をすぬき

いは、体どころから生じ、その物質をいふといふ事。

一、議長(前橋千春)  
産業課長

一、産業課長（古谷惣男）  
十八番議決を以ての押通しでございませう。三番の方へ移して、

いふ事つゝあるしてはただ年收の夜から説明がなされた通りでございまして、この英に  
あつては計算は少し欠トシ教と云ふもののみ當初見込んでおいたと教められ  
たところ事で私どもも鬼にやみ出し語らうと云ふ事でもございまして、前年改り  
更續からは較するのと、至五年から至六年の場合は約至五割の増えをし

て却りて本年は千分の増を来して却りてのて千上年度の切をすしてハモント教  
の増を見込んで却つたわけです。救済的の事業と千八年度に切つては歴史的  
ハ分の減と出で参りまして手相違りにいながらつたわけであります。飼育面と  
ハクウウの肉保のさういましてと場におおましては種んど地元の勝かど殺  
さい大口のさういさんのて見分置いお生いたわけであります。さうして却りての  
ほどに却りていいたります。

一十五番(南野鉄支助)  
議長

一、議長高橋千春  
十五番

一十五番野郎助  
奥陣より切向いの事みと殺り手数難と云ふようぞ

けいとも、鏡況に切つて、材料は、異當で、あり、そのとも、種々に切つて、その手  
数料せ値上げする意、み、あり、そのとも、参考を、で、に、切、り、た、し、平、。

議長(高橋千春) 町長

一町長石川南太郎  
付之ハ其ノ旨ヲ切實ニ申請ハシテ切リ奉ル。

二十五番 痛野鉄支助

一、議長(市橋正吉)  
十五番

二十五番 瑞明鉄支助  
大牛半馬、豚、一頭との位か

一、議長(市橋千春)  
産業課長

一、彙録長（百石徳男）  
使用料の値は、  
又、  
は、町長から申請して切符との関係

年々少くとも、このところでは、本年の月、東京電信社の工場組合の  
 利息で、銀行の貸金では、右の場、入札をして、経費面等から、不均衡が起るという  
 事や、値上げ運動を起し、東京の工場組合としても、現在其種の工場を、殊に又と  
 場を、そして、現在、この中、請のものは、又と、切りますか、か、認可は、切りと、切り  
 ません。値上げ申請の金額としては、半額を、四月、略五、四月、六月、半年、半年の  
 四月、これは、従前通りで、ござりますか、このようは、金額を認可して、いたく、よう、人  
 申請をして、切らなければ、ありません。

一議長(南滿子爵)  
二小倉實業主(終歸)いたし奉。功ありいたし奉。儀果

第二章 是は建設委員会に付託し詳細に審議を願ふ事と云ふに思ふ  
又之は切實議なりと云ふ。

界隈の上と町内者あり

議長(商榷) 仰賛議せしめざる決定は、尙委員会に審

査報は本会期中に功願いいたしき事。

一議長岡崎千春  
日曜第十五  
理事兼副会計兼入歳出決算認定の議案第百十九号を議題として  
し、朗読を省略した方が、理事者から提案理由の説明を求めた。

一收後山誠二  
登壇

昭和三十八年度福岡市建設事業会計の決算認定について功課明細し  
とある。正算を繰上り金計に切支へては千円、百万円、収増額が千百  
万円の不足である。そのうち千円、幾何に切支へては七百五十万円、百万円、  
不足として差引で四百五十万円、収増外税入繰越さるべき切り年。

この内、先づつての説明申し上げる。分相金及び賃料金を切替として未償地租  
分限のり年が、これに正當整理されて、有期に未償地として処分される。予め予  
想どおりの概算金額の中へ、一応新都市建設公社から要するものを使つて切替と  
いう関係のものをつぎひきして予算通り一千九百四年の収入となる。次に  
繰入金がつぎひきのみ一般部から正當整理事業促進のため若干円のみ予算  
通り収入して切替。雑収入は全然収入しない。歳入合計は千七百  
九十九円と切りまゝ。歳出で申し示すと事務費といふにしても予算が  
五千五百五十九円以内、支那額は四百五十八円五角まで、つぎひきして八  
万五千八百円の予算を残して切替。内訳として細かくて切替を、各税  
明しであると思ふ。その省略させてみた。次は公営事業費  
がつぎひきのみ予算額千八百九十九円まで、つぎひきした。実際の支出額は立白  
子五百五十四円で、四百八十五円四角という金額を残して切替。補償費  
は切替より当初留置するものの差額償還を見込んで切替とする。正當整理全

体の維持の關係、土地の契約等明期的な問題が僅かとして實際に於て大金額の  
買立方乃至買付金と云ふ事がある。これは手算の大数としての割増率  
の支拂が前よりして、その年度を取り返すから（さうすれば）年度のたゞは進ん  
だ努力をしておられるやうでござりまする。また年度とり返しを以てしようならぬ  
切当のやうであります。次の委託費でござりまする。これは正副地内の子  
は街路を造る事業といつてもよく新都市建設事業を委託する切当のや  
うな算通り、五百五十万とある。又切當のやうあります。又附屬入金はご  
ざりません。公債費の支払いはある。天ややでござりまする。準備金の支払いは  
なく、歳出合計として二百五十八万八千八百七十四円で、手算に對して四百三十九  
二千七百七十万の手算と減じておられるやうあります。歳入の差引きにして四百三十  
九万五千三百九十万と云う手算のみを九年後の繰越すといふ金額でござりまする。正副地  
理の割増金計の内容等は以上通りであります。このようにして、財政をいかにして、總定額  
の人事と手算の申し合わせとして説明せられていたかと存じます。

[illegible]

ふじり年か千五百四十圓中八分七厘半の増定額に付て千五百四十圓中  
収支額とある通り種々百圓に近り収入率とある通り百圓に近り年々。これは  
米穀料徴収に付て各社と知り年婦人会の方々に非常の熱心な協力  
によりて都下各社の成績をあげたこと事やふじり年。次の米穀料徴収材料  
ふじり年か千五百四十圓中八分七厘半。國庫支取金として千五百四十圓  
田の子算額に付して支取に付ししたる千五百四十圓中八分七厘半の金  
額をふじり年。子算に比較しおしる千五百四十圓中八分七厘半の金  
その関係は國庫補助金に付して千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り  
又、國庫支取金に付して千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り  
らる千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。次の収支支取金で、子算の百五十圓  
千圓中八分七厘半の金に付して千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
次、繰入の金で、ふじり年か千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
ふじり年か千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り

かききたるの關係もありして千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
ふじり年。繰入金は千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
金とありして千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
金に直接米穀料に付して千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
の通りふじり年。歳入合計として千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
ふじり年。歳入に納りして千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
の通りふじり年。歳入に納りして千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
年。次の金繰入で子算額七千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
ふじり年。歳入の千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
とありして千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
産額費も大体千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り  
二百四十圓の中算額に付して千五百四十圓中八分七厘半の金に付して知り。この通り





の次第でござりませぬ。又、繰上金に於ては分岐のような表をお示しと差し上げ  
 て御座るが如く變換いたさないと思ひます。歳入歳出共に事業費と経常経費  
 に別れ、回収金の収入は又々々五百五十円、前年度からの繰越金は五万七千七百五十  
 円の繰越金をつぎとして元金の繰越金と経常費の繰越金の内方の六つ大や  
 下ごしらえです。これは後程説明して下さる物ですが元金の三万八千四百円でござ  
 りませぬ。貸付けたりした元金はいくらあったかという事になりまして二万四千三百  
 四十四円であつたのでござります。そこで三万五千五百四十円とうきょう金額の欠損となつておられ  
 す。この英訳帳簿書にはあらわされてゐないのでござります。そういう事も事業費の内  
 容を合計する百九十八万三千六百九十円で、これに對して歳入は毎白くの貸付金額の  
 累計でござりますから百九十九万円と自國と差引くとすると貸付了りの現金が年  
 度末におよそ一十七萬四千三百六十円あるわけやござります。これを下げなければいけ  
 なう事はわかれます。實際は年々ござりますからその実態を経常経費で説明  
 を申し上げませぬ。利息收入として八十六萬五千二百七十円ござります。資金以外の金額のみ

[illegible]